

滝沢村(岩手県):滝沢村公共交通計画

安心して暮らせる地域を目指す公共交通計画の作成

人口	53,560 人	モード	乗継改善・ 複数モード
面積	182.32 km ²	法令	—
人口 密度	293.77 人/km ²	運営 主体	滝沢村



■ 取組の背景

地域と交通の状況

【交通不便地域の存在】【少子高齢化】

- 滝沢村では路線バスの廃止による公共交通の空白地域の増加、新しく開業した駅(IGR いわて銀河鉄道巣子駅)の利用促進と地元鉄道の維持の必要性、村が行う福祉バスなどの事業の見直しが求められているなど、公共交通を取り巻く環境に変化が起きている。
- これらの課題に対処し、今後迎える高齢化社会に対応するため、総合的な公共交通計画の策定が必要であった。

活用メニュー(制度・協議会等)

【公共交通活性化総合プログラム】

- 滝沢村では村民の日常生活に必要な公共交通機関の維持・確保と更なる利便性の向上などを図るため、住民・村内企業・村内各種団体・交通事業者・各行政機関・学識者から、助言・調査・研究・助成金などの支援を受け、平成 18 年 3 月に「滝沢村公共交通計画」を策定し、取組みを進めている。
- 具体的取組みのうち「巣子地域循環バス」については、公共交通活性化プログラムを活用し、平成 18 年 7 月～平成 19 年 3 月まで実証実験運行を行った。

■ 実現したサービス

取組み内容

【地域交通体系整理】

- 滝沢村公共交通計画では、「この地域で安心して暮らしていくため、協働によりつくりはぐむ『たきざわの公共交通』」という基本理念のもと、①いつでも、どこでも安心して利用できる、②限りある資源を有効活用し、最大限の効果を発揮できる、③地域や住民が主体となり、協働により進めることができる、④環境に配慮した、地域にやさしい交通体系を目指す、の 4 つの基本目標を掲げている。
- その上で滝沢村の公共交通の課題として、①駅を核とした公共交通網の整備、②路線バス制度の変革に対応した再編、③村による公共交通輸送事業の効率化、④公共交通空白地域の移動手段確保の 4 つを示した。
- 計画の達成が住民に評価されやすいように、数値目標で目標を設定し、それをもとに事業を実施し、管理を行う。(例:バスや電車は便利で利用しやすいと思う人の割合を今後 10 年で現状 27.1%から 5 年後 30.0%、10 年後 33.0%に増やす)
- 公共交通の維持は「セーフティネット(健康で文化的な生活を送ることができる最低限度の保障)」の 1 つであると考え、地域の事情に合わせてシビルミニマム(地域生活水準)を設定し、計画による事業実施の優先度を決定することとしている。
- 「駅を核とした公共交通網の整備」の課題に対処するため、IGR いわて銀河鉄道の新駅である巣子駅において、鉄道とバスの結節による「レール・アンド・ライド」の実施を目指し、「巣子地域循環バス」を運行することとした。

■ 効果と負担

効果

【利便性向上】

- ・ 巢子地域循環バス実証実験を通して、バス事業者が同一系統を共同運行するというバス事業者間の新たな連携が生まれた。
- ・ また、鉄道と路線バスの各事業者が共同して、巢子駅～盛岡駅間の鉄道から盛岡市中心部のバスを乗継ぐ切符(すご e-きっぷ)の発売を行うといった共通乗車の実現を目指す取組みが実現した。

負担

【国負担】【都道府県負担】

- ・ 実証実験の事業費は 17,489 千円であった。(うち国補助金 6,906 千円、県補助金 578 千円)

■ プロセスと調整

滝沢公共交通推進委員会

【プロセス:体制構築】

- ・ 住民・村内企業・村内各種団体・交通事業者・各行政機関・学識者などをつくる「滝沢公共交通推進委員会」を中心として、個別の運営協議会を設置し、協働による事業の促進を図っている。

協働による事業

【連携:対住民】

- ・ 公共交通の維持や利用促進には、地域の住民の自主的かつ積極的な関与が必要であることから、村では公共交通に関する広報やアンケート、実証実験などを積極的に実施し、住民の公共交通への興味・関心を高めることとしている。

■ 創意工夫・知見・教訓

専門家による調査・分析協力

【知見:的確な役割分担】

- ・ 委員として参加している岩手県立大学元田良孝教授、横浜国立大学中村文彦教授、そしてそれぞれの研究室の学生が調査・分析に協力した。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：滝沢村都市整備部道路課 電話 019-684-2111

参考 URL：滝沢村公共交通計画について http://www.vill.takizawa.iwate.jp/traffic_transportationplanning









■ 資料編

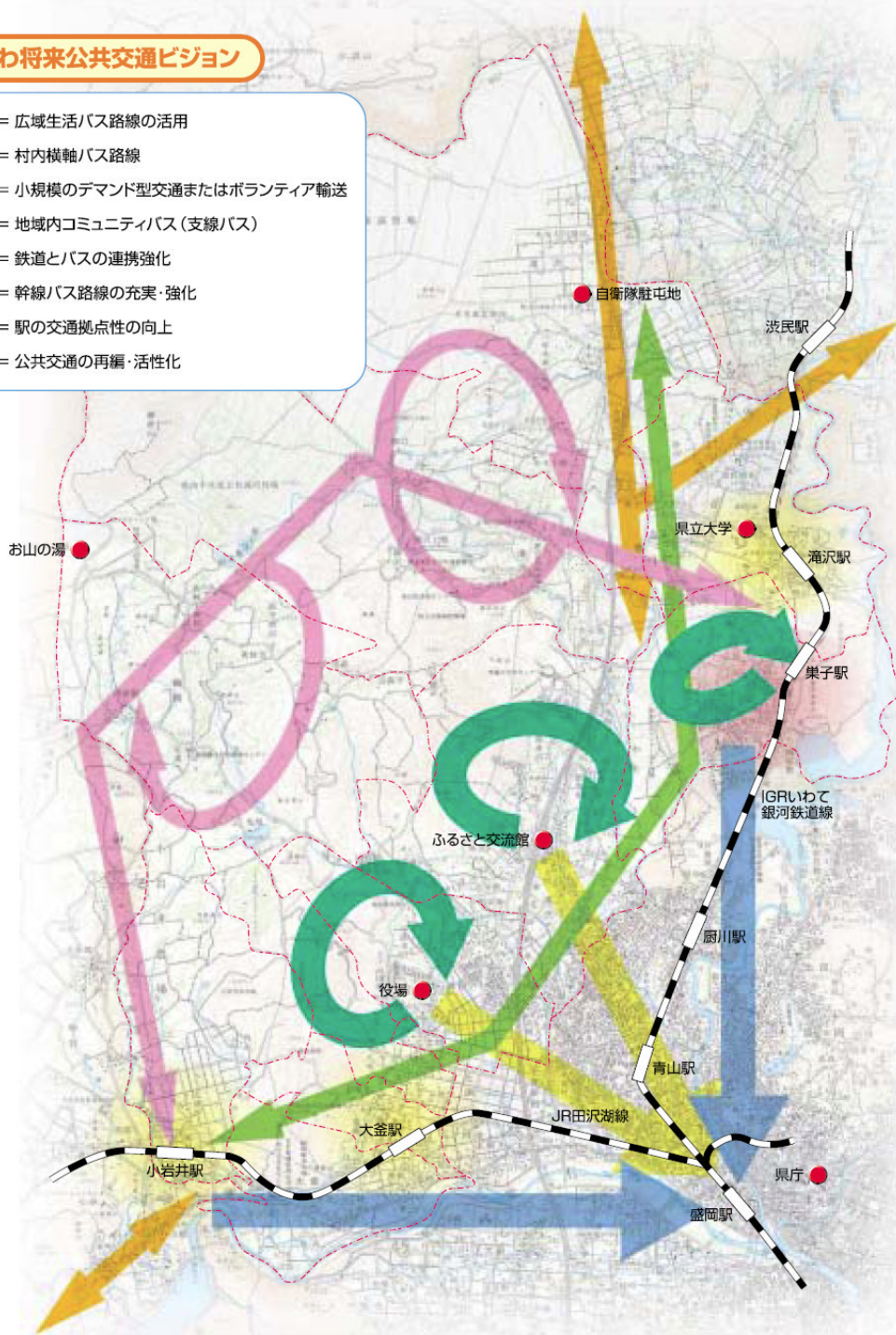
たきざわ将来公共交通ビジョン

「たきざわ将来公共交通ビジョン」は、滝沢村における将来の公共交通網をデザインしたものです。

このビジョンは、滝沢村が公共交通に関する取り組みを進めていく上で、一番大きな目標となる事業の将来像であり、この内容を実現するため、それぞれの地域や目的などに応じて行う公共交通の利用促進に向けた取り組みを進めます。

たきざわ将来公共交通ビジョン

-  = 広域生活バス路線の活用
-  = 村内横軸バス路線
-  = 小規模のデマンド型交通またはボランティア輸送
-  = 地域内コミュニティバス(支線バス)
-  = 鉄道とバスの連携強化
-  = 幹線バス路線の充実・強化
-  = 駅の交通拠点性の向上
-  = 公共交通の再編・活性化

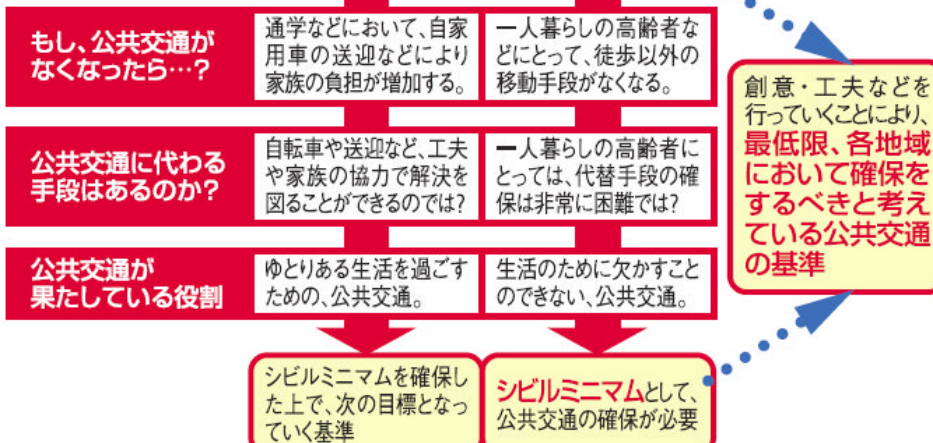


出典：滝沢村公共交通計画

■ 資料編

滝沢村の公共交通におけるシビルミニマム基準

		運行される頻度・回数		運行される おおよその時間帯 ※平日を中心とした 生活に基づく 時間設定	
		※平日を中心とした生活に基づく時間の区分 ()はおおよその目安となる時間			
設定の 基準		朝及び夕方・夜間 (6~9時・17~20時)	日 中 (10~16時)		
地域の 区分	設定の 基準	通勤や通学が可能 あるいは便利な環境 であること	買物や通院など日常 の用務が可能あるい は便利な環境である こと	各行動目的に対応 した上で、多様化する 生活サイクルに可能 な限り対応すること	
	目指す べき	市街地の 中心的な地域	10~20分 の間隔以下	15~30分 の間隔以下	5時~24時
		市街地	30~60分 の間隔以下	1時間 の間隔以下	6時~22時
		郊 外	1~2時間 の間隔以下	2時間 の間隔以下	7時~20時
	守る べき	農村部・ 中山間部	(朝と夕方あわせて) 1往復以上	(午前と午後あわせて) 1往復以上	7時~19時



	市街地の中心的な地域	市街地	郊 外	農村部・中山間部
小岩井		小岩井駅周辺		その他の地域
大 蓋		大釜駅前の区画整理地	みどり団地など国道沿い	その他の地域
篠 木		大釜駅周辺	篠木小学校周辺	その他の地域
大 沢			大沢保育園周辺	その他の地域
鶉 飼	滝沢NT、一本柳バス停周辺	上山団地・役場周辺、盛岡環状線の沿線	浄水場・蒼前神社周辺	その他の地域
姥屋敷				全域
元 村	ふるさと交流館以南の国分通り沿線	ゆとりが丘・室小路、国分団地、かつらぎ団地、あすみ野、法誓寺地区	滝沢中学校周辺、外山団地、けやきの平団地、牧野林北部	その他の地域
川 前	菓子・長根中心部	滝沢駅周辺	野沢団地、東部体育館周辺	その他の地域
一本木		一本木小学校周辺	いずみ菓子NT	その他の地域
柳 沢			大石渡・分れ周辺	その他の地域

※この地域区分は、平成17年時点の人口や都市計画区域、路線バス運行状況などに基づき、目安として設定しました。
赤字部の地域は、主要道路が狭隘なために大型のバス車両などの運行が難しいと考えられる地域です。